
日産・マリア・プレマシー

雛祭パペ彦

注意事項

このPDFファイルは小説サイト「小説家になろう」で掲載中の小説を、「PDF小説ネット」の変換システムが自動的にPDF化したものです。この小説の著作権は作者にあり、作者または「小説家になろう」および「PDF小説ネット」を運営するウメ研究所に無断でこのPDFファイルおよび小説を引用を超える範囲で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止します。小説の紹介や個人用途での印刷および個人用途での保存はご自由にどうぞ。

【小説名】

日産・マリア・プレマシー

【Nコード】

N5444A

【作者名】

雛祭パペ彦

【あらすじ】

あるところに、幼女が1人いた。その幼女の名前は「日産・マリア・プレマシー」といって、日系アメリカ人だった。日産が母方の姓で、マリアが名、プレマシーが父方の姓である。

あるところに、幼女が1人いた。

その幼女の名前は「日産・マリア・プレマシー」といって、日系アメリカ人だった。日産が母方の姓で、マリアが名、プレマシーが父方の姓である。

小学校からの帰り道。日産・マリア・プレマシーが歩いていると、突然、空からハンドスコップが降ってきた。

「あれえ？ なんだろー」

日系ハーフという外見が災いしてなのか、現在、友達が1人もいないマリアは、普段から独り言が多い。

「あつ、スコップだ！。しかも、キラキラしてるー。きれー」

その残念な独り言が示すとおり、空から降ったハンドスコップは、黄金色に輝いていた。

「ラッキー。マリアって、ラッキー」

マリアは幼女である。

幼女に法の遵守を求めても仕方がない。

つまり、マリアは黄金色に輝くスコップを拾い上げ、その場から持ち去ったのである。

しかし、ちょっと考えてみてほしい。

もしこれが大人であれば、真っ先に交番に届けなければかりか、た

とえ道路の真ん中に落ちていてそれが原因で交通事故が発生する恐れがあるとわかっていたとしても、多くの者は見て見ぬふりを決めこむだろう。

つまり、いちおう大人と呼ばれているそのような連中に比べれば、欲望のおもむくままにハンドスコップという拾得物を横領したマリアこと「日産・マリア・プレマシー」容疑者（7）の方が、起こりうる悲劇を未然に防いだという意味では、いくらかマシなのである。

ところで、ハンドスコップとは何か。

簡単にいえば「チューリップの球根」や「サツマイモの種芋」を植える際などに用いる、長さ15センチほどの園芸用スコップのことである。

その他の用途としては、気に食わない連中をブン殴ったりメッタ刺しにしたりというように、まあ色々なことに使える優れものである。

マリアは幼女なので、ハンドスコップを手に入れると、まっさきに公園の砂場へと向かった。

「まーぜーて。マリアも、まーぜーて」

砂場には、先客がいた。

猫が3匹、皆でそろって用を足していたのである。

用を足していたとは、つまり、砂場の上にはしゃがんだり寝転んだりしたうえで、小便や大便を垂れ流していたという意味である。

「かわいいー。にゃーちゃん、かわいいー」

と、無邪気に言い放ちながら、マリアが砂場に駆け寄っていくと、3匹の猫たちは一斉に逃げ出してしまった。

「犬は自ら隷属を望んでヒトに近づき、猫は自ら貧窮を望んでヒトを避ける」とはよく言ったもので、いやそんな格言は無いのだが、とにかく、砂場にはマリアだけがひとり取り残された。

「よし。マリア、おしろつくるー」

そんな7歳日系アメリカ人ハーフ女兒の可哀想な独り言が示すとおり、砂場といえば「砂のお城」である。

お城と言つても、子供の場合、単に砂を無造作に積み上げたものを「お城」と称する場合が多い。

ちなみに彼らが言う「お城」とは、石垣や天守閣などでイメージされる我が国固有の城郭ではない。

西洋の、いまだに貴族の末裔たちが住居として使用していたり、安くない見物料を徴収しつつ公開しているような「キャッスル」や「パレス」のイメージを、子供たちは山盛りの砂に投影しているのであって、これは実に嘆かわしいことである。

もし、現代に島津義久や三好長慶が生きていたら顔を真っ赤にして即座に抜刀 いや、生きていられるはずがないし、タイムスリップとかも有り得ないので、考えるのは止めておく。

「ざつくり、ざくざくー。ざつくり、ざくざくー」

さつそく「野良猫たちの公衆便所」こと「公園の砂場」にしゃがみこんだマリアは、奇妙な掛け声とともに、さきほど拾ったハンドスコップを砂地に突き立てる。

そして、ゴールドの輝きを持つスコップの刃先が、黒褐色の砂を掬いあげた瞬間 マリアの身に驚くべき変化が起こった。

「あれー？ あれー？」

が著しく増大していた。わかりやすくいえば、上半身だけがマッチョ体型になっていったのである。

首から上や、下半身は、マッチョになった上半身を支える最低限度の肥大を遂げたに過ぎなかった。

「せまいよー。きんにくムキムキだよー。」

そして、巨大化していたのはマリアの身体だけではなく、ハンドスコップも同様だった。たったひと掻きするだけで、数十キロメートルの深さを掘削できるほどに、マリアとスコップは巨大化し続けていた。

「ぞっくり、ぞくぞくー。ぞっくり、ぞくぞくー」

ハンドスコップによりもたらされる悦楽に恍惚としながらも、とりあえずマリアが地面を掘り続けていると、地下水脈に突き当たった。

マリアの足元が水浸しになる。

「つめたいよー。パンツがスケスケだよー」

さらに掘り進めると、水がお湯に変わった。

つまり温泉である。

「あつたかいよー。ビバノンノンだよー」

もはや本人の意思に関わらず、マリアのハンドスコップは地面を掘り進めていた。

温泉が湧出する地点まで掘り進めてしまった後、その先に何が待っているかなど関係なく、マリアのハンドスコップは、ひたすら地

球の地殻部分を掘削し続ける。

「ぎゅっくり、ぎゅっくり。ぎゅっくり、ぎゅっくり……アーッ！」

マグマが噴き出した。

マリアが溶け始めた。

マグノリアは面白い。

マリアは死にました。

広告募集中

小説関連広告に最適です。
出版社や印刷会社はもちろん、
個人の広告でもOK

縦：140mm 横：110mm

詳しくは PDF 小説ネット広告募集をご覧ください。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネットは2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5444a/>

日産・マリア・プレマシー

2009年2月17日08時08分発行